

特集！JPCOAR関連イベントレポート

2018年度も折り返し地点を過ぎました。CoCOAR5号では、JPCOARが運営協力を行ったJOSS 2018をはじめ、新任担当者研修やJPCOARスキーマ説明会、3つの企画について参加レポートをいただいています。参加できなかった方とも当日の雰囲気共有の一助になれば幸いです。研究データタスクフォースの活動状況や新連載オープンアクセス論文紀行も始まります。秋の夜長にCoCOARで楽しい一時をお過ごしください。

報告：Japan Open Science Summit 2018に参加して

写真提供：JOSS事務局

2018年6月18日、19日に開催されたJapan Open Science Summit 2018（以下、JOSS）に参加しました。オープンサイエンスに関わる様々なバックグラウンド、目的意識を持った方々が集結した熱気あふれる催しでした。私は2つの基調講演とリポジトリや研究データ管理に関する内容を中心に5つのセッションに参加しました。その中から印象に残ったセッションと講演を3つご紹介します。

『大学図書館による研究データ流通のサポート』では、データアーカイブの取り組み、JPCOARスキーマの紹介、図書館と研究者のデータのやりとりに関するディスカッションが行われ大変勉強になりました。研究者に対して、研究成果や研究データの提供・登録を促すことは、リポジトリを運営するにあたり大きな課題だと感じています。このセッションでは、具体的な対策として「若手研究者を対象に登録した研究データによる業績の審査・表彰を行う」、「研究者、研究成果、研究データにそれぞれIDが付与され、各IDがリンクされているデータはリポジトリ内での検索結果上位に表示される」といった登録へのインセンティブを与えるアイデアが紹介されました。すでに、研究成果にDOIの付与を行ったり、ORCIDなど執筆者IDを記載したメタデータ作成に取り組まれているリポジトリも多くあると思います。IDが付与されたメタデータを検索結果上位に表示することが技術的に可能かどうか検証が必要ですが、データを提供する研究者にとって



メリットのあるリポジトリづくりにつなげたいと思いました。

日本医療研究開発機構（AMED）末松誠先生の特別講演『AMEDのミッション：データシェアリングはなぜ難しいか？』では、医療の現場でデータをシェアすることの意義を知る貴重な機会となりました。カードゲームの「神経衰弱」のように、シェアされた症例データを照合することで、治療や研究に役立てられているそうです。オープンサイエンスが学術だけでなく、社会への貢献につながることを実感しました。データシェアリングを行う上で、個人情報の取り扱い、症例データの形式のばらつき、多言語への対応が困難な課題として挙げられていました。診療画像データに特化したデータベース構築のニーズも高まっているようです。

フォトセッションでは「JOSS〜！」の掛け声に合わせ、参加者の方々が両腕で○（Open ScienceのOの字）を作る和やかな場面もありました。右手に持ったコーヒーをこぼさないよう、左腕だけ「JOSS〜！」に参加した私は、意図せずCの字を作っていました。（しかも逆さ）今回のキーワードのひとつ「Core Trust Seal (CTS)」のCと考えれば、案外的外れでもないかもしれません。（後付け）

CTSとは、Data Seal of Approval (DSA) と国際科学会議（ICSU）世界科学データシステム（WDS）のワーキンググループによって策定された「信頼できるデータリポジトリ」の認証を行う制度です。（参考：<http://current.ndl.go.jp/e1888>）

『研究データ管理を考える〜データリポジトリのサービスとCore Trust Seal認証〜』では、CTSの紹介と導入の意義について詳しく知る機会となりました

た。研究者が安心してデータを預けるために、リポジトリの信頼性を客観的に示す方法が模索されています。その実現のためにCTSが注目されています。認証要件は16項目設定されており、「データ管理体制は整っているか」という内容や「データ管理におけるセキュリティ対策が行われているか」など多角的な視点から項目が設定されています。項目内容を確認するだけでも日頃のリポジトリ管理業務の改善に活用できそうです。詳細な項目は以下のCTSのホームページで確認できます。

<https://www.coretrustseal.org>

また、今回ご紹介したセッションも含め、JOSSのホームページで発表資料が公開されています。ぜひご覧ください。<https://joss.rcos.nii.ac.jp/>

泉 愛（九州大学附属図書館eリソース課リポジトリ係）

開催中！：機関リポジトリ新任担当者研修

2018年7月26日・27日に、研修作業部会が中心となって第1回機関リポジトリ新任担当者研修を開催しました。

本研修はオープンアクセスの推進と機関リポジトリの構築・運用に必要な基礎的知識を修得するための研修です。広報普及作業部会員の私も、機関リポジトリの新任担当者として受講しました。

1日目は機関リポジトリへの理解を様々な側面から深める内容の講義が盛りだくさんで、機関リポジトリの基礎や著作権、コンテンツ構築に関する話はもちろんのこと、普段の業務ではなかなか知ることのできない各機関の事例報告や研究者からの意見までペアワークを交えながら学ぶことができました。

2日目は今話題の研究データ管理に関する講義や、JAIRO Cloudの操作説明会が行われただけでなく、グループ討議が開催されリポジトリ運用上の課題について活発な議論が行われました。

両日ともに受講して、機関リポジトリを一から学

ぶ担当者はもちろん、一定程度知識のある担当者でも、新しい学びがある内容になっていると感じました。

本研修は全国から同じ業務を行う担当者が集まる貴重な機会ということで、講義中に行われたペアワークだけでなく、休憩中や講義終了後の懇親会でも積極的に参加者同士の情報交換が行われていました。また、ウェブ上で事後コミュニティが設けられており、研修後も担当者同士で意見交換を行ったり交流を深めたりすることが可能です。

今回、会場では32名の受講生が参加しましたが、あわせてオンラインで遠隔地受講の実験も行われ、3名が参加しました。オンライン受講といっても、講義を聴くだけでなくグループ討議にも参加することができ、作業部会員と会場ファシリテーターを交えて会場と同様の熱い議論が交わされていました。研修作業部会では、今後の研修でも実験を重ね、開催方法について手順を決めていく予定です。

機関リポジトリ新任担当者研修はJPCOAR会員機関の職員であれば受講が可能で、毎年多数のお申し込みをいただいています。今年度は既に申し込みが終了しておりますが、計4回実施予定です。研修教材とグループ討議成果物を、年度末にJPCOARのホームページから公開予定する予定です。

実施要領等の詳細についてはJPCOARのホームページにてご覧ください。

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=57

中竹 聖也（広報普及作業部会・東京大学）



報告：JPCOARスキーマ説明会開催

2018年8月6日に東京で、9月6日に神戸でJPCOARスキーマ説明会を開催しました。昨年度の内容に加えて、九州大学でのJPCOARスキーマ適用事例や新IRDB、JAIR Cloudの開発状況などを報告しました。両会場あわせて181名の参加いただきました。当日の発表資料はJPCOARのホームページにて公開予定です。当日の様子について中谷さんのレポートをご覧ください。

■JPCOARスキーマ説明会参加レポート

2018年8月6日、東京会場（国立情報学研究所（NII））にて開催された「JPCOARスキーマ説明会」へ参加しました。

当日のプログラムでは、スキーマの概要・詳細から実際の適用例のほか、スキーマに対応したIRDBの現状、JAIR Cloud・CiNiiの開発状況なども取り上げられました。



リポジトリ担当者として気になるのは、やはりJPCOARスキーマによってどう変わるのか、どう対応すればよいのかという点。それらに答えるように、スキーマの詳細解説では、各要素の記述方法や、特に大きく変更されている箇所、新しく追加された箇所などが重点的に解説されました。

junii2からの移行対応で筆者が特に注目しているのは、属性の拡充です。junii2ではあまり用いられていませんでしたが、JPCOARスキーマでは属性をベースとして表現される要素も少なくありません。解説では、junii2における「ISBN (isbn)」・「PubMed ID (pmid)」などの要素が、要素「関連識別子 (jpcoar:relatedIdentifier)」の属性として統合されていたり、博士論文の要旨・審査結果要旨・要約を「本文 URL (jpcoar:URI)」要素の属性 (abstract, other, summary) によって区別したり、といったことが取り上げられました。付与できる属性の幅が広がり、表現の自由度が増した反面、これまで要素として持っていた情報がどの要素×属性にあたるのか、よくよく確認する必要があります。こういった要素それぞれの移行を考えるにあたって

参考になるのが、実際にスキーマを適用させた九州大学の事例です。特に参考として付されているtextversion要素の移行事例は、元々ひとつであった要素をふたつに分解して記述する試みの紹介でしたが、元々持っていた情報を捉えなおし、新要素へ適用させる、という作業のイメージを掴むことができるのではないかと思います。

今回の説明会で一貫して強調されたのが、「まずはjunii2形式できちんとデータを持っておくこと」でした。IRDBの現状紹介においても、当分の間はjunii2形式のハーベストも継続されると明言され、また8～9月中に行われるIRDBの臨時全件ハーベストによって、各機関のエラーデータなどが通知されると予告されました。今号発行の頃には、多くの機関で通知を受け取っているのではないのでしょうか。スキーマの話があるけど何をすればいいかわからない、という方はまず、全件ハーベストの結果を確認し、エラーがあれば修正するなどして、自機関のデータをきちんと管理することから始めるべきでしょう。

JPCOARスキーマの策定から間もなく一年。ようやく実感をもって全容が掴めてきたと思うと同時に、大きな変革の時だからこそ、これまで構築してきたものをしっかりと見直しておくべき、ということを感じさせる機会となりました。

中谷 昇（広報普及作業部会・鳥取大学）





◆ JPCOARスキーマ Ver.1.0.1をリリース (2018/08/06)

JPCOARスキーマ Ver.1.0.1をリリースしました。出版タイプの記入方法変更のほか、微細な修正が行われています。今後も国際的動向を踏まえた上でメンテナンスを継続していきます。

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=49#_href_242

◆ 臨時総会及び新会長就任 (2018/08/07)

2018年7月に臨時総会が開催され、深澤会長の辞任に伴う新会長として阿部豊筑波大学附属図書館長が就任されました。作業部会やタスクフォースなども含めた2018年度の組織は以下をご覧ください。

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=39

◆ 「統合イノベーション戦略についての見解」を作成しました (2018/08/07)

2018年6月15日に閣議決定された『統合イノベーション戦略』に盛り込まれた「第2章 知の源泉(2) オープンサイエンスのためのデータ基盤の整備」に関し、JPCOAR運営委員会としての見解を作成しました。

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=74#_href_243

◆ Science Europe、cOAlition Sをスタート! (2018/09/06)

Science Europeによる公的助成を受けた研究成果物の完全かつ即時オープンアクセスを目指すイニシアチブcOAlition Sが発表されました。JPCOARとしても注目すべき取組です。

<https://www.scienceeurope.org/coalition-s/>

新連載! : オープンアクセス論文紀行



機関リポジトリには、国際学術誌で発表された欧文論文もあれば、国内学会誌や大学紀要に掲載された日本語論文もあります。それらの中には、初学者や一般の方にとっても読みやすい、興味を惹かれるテーマの文献も無数にあります。

本連載は、毎回テーマを決めて、専門家以外の方にとっても親しみやすい日本語文献を紹介して

いきます。初回のテーマは“日本の歌手・アーティスト”としました。右ページは、そのまま大きく印刷してポスターのように掲示できるよう構成しています。よろしければ閲覧室に貼り出すなど、教員・学生みなさんにオープンアクセス文献の存在に慣れ親しんでいただくための一助としてお使いください。

タレコミ募集!

本連載はJPCOAR参加機関のみなさんの推薦で記事を作っていきます。次回テーマは「恋愛観」!

古今和歌集20巻中、5巻を恋歌が占めます。では恋を扱った学術論文はどんなものがどのくらいあるのでしょうか。JAIRを検索し、恋愛を直接的・間接的に取り上げた楽しそうな文献を見つけて情報をお寄せください。もちろん、自機関のリポジトリ上の文献の自薦も大歓迎。奮ってご協力よろしくお願いします!

投稿フォームはこちら↓ (11月15日マデ)

<https://goo.gl/forms/qELczq0UWGQx0suP2>





オープンアクセス 論文紀行



J P C O A R
オープンアクセスリポジトリ推進協会

Vol.1 日本の歌手・アーティスト

国内の多くの大学が、所属研究者の執筆文献を大学のウェブサイト（「機関リポジトリ」）で公開しています。の中には、専門家の方以外にも親しみやすい日本語文献もいっぱい！
専用検索サイトJAIROであなたも楽しそうな文献を見つけてみませんか？

ミュージックビデオの聖地巡礼に関する研究：SKE48「羽豆岬」を事例として（北海道大学）

PerfumeとAKB48の違いに関する一考察：「グループ」と法（北海道大学）

演歌再興：氷川きよしの出現（札幌大学）

<論文・報告>ビートとコードをリアルタイムで認識しながら音楽に合わせて歌って踊るロボット（京都大学）

モーニング娘。とAKB48のビジネスシステム：その生成プロセスと新奇性・競争優位性（京都産業大学）

「アイドル」文化を活用した地域振興に関する一考察：「ご当地アイドル」のパフォーマンスを事例に（同志社大学）

今はまだ人生を語らず：《吉田拓郎》が描く「生」の継続（同志社女子大学）

「浜田省吾」が構成する戦後の軌跡（同志社女子大学）

<エッセイ>虚空を映し出す大きな瞳：一九七〇年代の沢田研二論（国際日本文化研究センター）

燦たる歌声～映画で知る美空ひばりの時代～（武庫川女子大学）

中国語圏ジャニーズファンの活動及びファンコミュニティの特性（神戸松蔭女子学院大学）

桑田佳祐と夏目漱石の「鎌倉物語」、駆け込み巡礼歌：縁切尼寺・「東慶寺」という磁場、〈縁〉をく〈無縁〉で結ぶ原理（佐賀大学）

スピッツは変わったか？ - アルバム『小さな生き物』（2013）をめぐって - （福岡教育大学）

槇原敬之の歌詞の数量的分析：『君が笑うとき君の胸が痛まないように』から『Heart to Heart』まで（琉球大学）

椎名林檎における「歌」の解体と再生（県立新潟女子短期大学）

ゆずの歌詞における魅力（宮城学院女子大学）

浜崎あゆみ研究--「A Song for ××」に見られる親の子どもへの不適切なかわりの影響（東北福祉大学）

AKB48の躁、初音ミクの鬱：コミュニケーション至上主義の光と影（筑波大学）

中島みゆきの女性イメージ（千葉大学）

宇多田ヒカルとロスト・アイデンティティ（駒澤大学）

グローバル交流論議義ノート きゃりーぱみゅぱみゅと「耳の中世化」（駒澤大学）

中島みゆき論：「靴」「あしあと」「蹴」についてのお話（青山学院大学）

いきものがかり・水野良樹と山下穂尊の歌詞に関する文体的特徴分析：計量言語学的手法による（東京女子大学）

アイドルが生息する「現実空間」と「仮想空間」の二重構造～「キャラクター」と「偶像」の合致と乖離～（江戸川大学）

ジャニーズファンの思考（一橋大学）

宮崎駿監督作品の主題歌に関する考察：ゼロになる音（関東学院大学）

いきものがかりの言語学5～人称詞（岐阜大学）

J-Popのイノベーターとしての「非アイドル」グループに関する一考察：DISH//、超特急、BOYS AND MENを中心に（愛知県立芸術大学）

女性歌手の流行歌にみる「キミ（君）」の変遷（天理大学）

現代消費社会における「青少年育成」のパラドックス--<教育者>としての尾崎豊--（香川大学）

ももいろクローバーZの楽曲におけるくわけのわからなさの美学（香川大学）



ご紹介している文献は、すべてJAIRO (<http://jairo.nii.ac.jp>) から検索し、各大学のウェブサイト（機関リポジトリ）で全文を閲覧可能です。

JAIRO
Japanese Institutional Repositories Online

簡易検索 詳細検索 2018/08/09現在 695機関 2,946,565件

検索

☐ すべて ☐ 本文あり

報告：RDM教材開発と人材育成～データライブラリアンのネットワーク作りに向けて～

近年、オープンサイエンス推進の流れや研究公正の確保を背景として、研究データ管理（RDM: Research Data Management）が注目を集めています。RDMとは、ある研究プロジェクトにおいて使用された、あるいは生成されたデータの組織化、構造化、保存、共有、公開、再利用に関する一連の作業を指す言葉です。

データ管理の当事者は研究者自身ですが、欧米の研究大学では、データライブラリアンと呼ばれる図書館員が中心となり、学内の関連スタッフと協力しながら、データのライフサイクルに沿って、さまざまな支援サービスを研究者に提供しています。日本でも、文部科学省の学術情報委員会による『学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）』（2016年2月）のなかで、大学等に期待される役割のひとつとして、「技術職員、URA及び大学図書館職員等を中心としたデータ管理体制を構築し、研究者への支援に資する」ことが挙げられています。

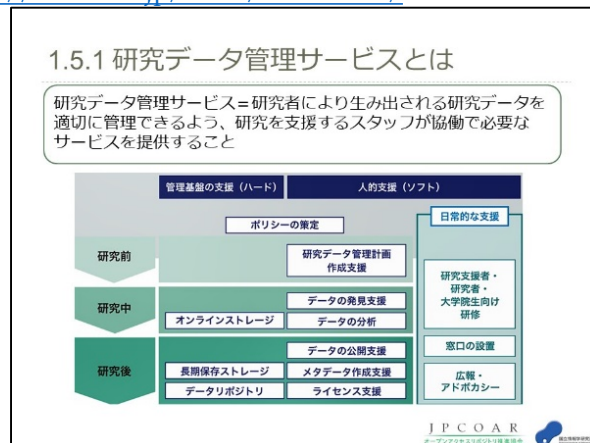
しかしながら、図書館員をはじめとして、国内大学の研究支援スタッフは、データを管理するための知識や経験を持ち合わせておらず、外部からの期待は高まるものの、それに応えることができないという状況が続いていました。

こうした状況を何とか打開しようとJPCOARの研究データタスクフォースは、海外のさまざまな教材を参考にして、RDMの基礎を学ぶための教材「RDMトレーニングツール」を開発し、2017年6月にJPCOARのサイトから公開しました。

さらに、NIIはタスクフォースの協力を得つつ、この教材を再編し、2017年11月から2018年1月にかけて、JMOOCのgaccoというプラットフォームからオンライン講座「オープンサイエンス時代の研究データ管理」として開講しました。幸いにして、この講座は好評を博し、2,000名以上が受講し、修了率も25%に達し、gaccoの平均を大きく上回るという結果を得ました。

一方、講座の受講者から寄せられた意見の中から、課題も浮かび上がってきました。例えば、研究者自身が行うべきことと研究者を支援するスタッフが行うべきことが混然一体となり区別できない、開講時間が短い、オンデマンドでいつでも学習できるようにしてほしい、などの意見や要望をいただきました。こうした意見や要望を踏まえ、タスクフォースは新教材の開発に取り掛かり、研

究者を支援するスタッフ向けに、研究者の研究プロセスに沿ってRDMサービスを設計し、それを実践するノウハウを学ぶための教材「研究データ管理サービスの設計と実践」を開発しました。この教材もJPCOARのサイトから公開されています。
<http://id.nii.ac.jp/1458/00000107/>



【教材より抜粋】

新教材は、NIIで開発中の学習管理システムに搭載してオンライン講座として提供する予定です。正式提供に先立ち、いくつかの機関の図書館員や研究支援スタッフに試用してもらい、そこからフィードバックを得て、教材コンテンツ、システム、運用方式などを見直したうえで、公開する予定です。この試用プロジェクトは、全国の18機関に参加していただき、8月下旬から始まっています。

また、毎年恒例の図書館総合展でも、10月31日に「広げよう、データライブラリアンの輪」というフォーラムを開催いたします。そこで、新教材について紹介し、試用プロジェクトの成果についても報告したいと考えています。

米国では、データライブラリアン（米国ではデータキュレーターという名称の方が一般的ですが）たちによるネットワークが既にできつつあり、それぞれが得意とする主題の知識やRDMの経験を活かしながら、互助的な組織を作りつつあります。日本でも、RDMについて学ぶための教材作りやその利活用の活動をきっかけとして、データライブラリアンのコミュニティが育っていくことを期待しています。研究データタスクフォースはその結節点として、これからも人のネットワーク作りのお手伝いをしていきたいと考えています。

尾城 孝一（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター・研究データタスクフォース）

Upcoming Events!

10/29
東京開催

「DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行相談会」

昨年に引き続き、JAIRO Cloud運用作業部会では、「DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行相談会」(2018年10月29日(月)・国立情報学研究所)を開催します。

この相談会は、同作業部会委員が、DSpaceからJAIRO Cloudへ移行中または移行検討中の機関の担当者みなさまと一緒に、データ移行に関する実践的なノウハウを共有し、技術的な懸案事項を解決していくものです。当日の様子は本誌誌上でご紹介します。

また、同作業部会では、JAIRO Cloudへの一斉移行を予定している地域共同リポジトリを対象としたワークショップを計画しており、今年度は新潟県を対象として試行を予定しています。



10/30(火)
13:00-14:30

『オープンサイエンス、 どこからどう手をつけるか？ JPCOARの中長期戦略』

今年度の図書館総合展でJPCOAR主催のフォーラムを開催します。オープンサイエンスというキーワードと、現在JPCOARで策定作業中の「中長期計画」を中心に、豪華登壇者をお呼びし、図書館ができることを探ります。

メタデータ普及TFによるポスターセッションも予定しています。

<https://www.libraryfair.jp/forum/2018/6732>



10/22(月)
-28(日)

国際オープンアクセス ウィーク2018

2018年のOpen Access Weekは10月22日(月)～28日(日)、テーマは「Designing Equitable Foundations for Open Knowledge」です。

JPCOARでは昨年に引き続き、このイベントに合わせて特設ページを開設し、みなさまにご活用いただけるオリジナルツールの作成に取り組んでいます。ぜひご活用ください。



編集後記

やるやる詐欺になってしまいましたが、無事CoCOAR5号刊行できました。楽しんでいただけたら幸いです。(琉大・大谷)

新スキーマへの対応は、難しく考えず、できるところから。

「？」が出たらお気軽にJPCOARへご相談を！(鳥大・中谷)

10月以降もイベントが目白押しです！まだまだしばらくJP"CORE"な日々が続くそう！！(一橋大・村井)

新連載も始まり、より内容の充実したCoCOARを今後ともよろしく願います。(東大・中竹)

Webサイト: <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/jpcoar/>



JPCOAR Newsletter: CoCOAR 第5号

2018年10月9日 発行

オープンアクセスリポジトリ推進協会